

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	名古屋短期大学
設置者名	学校法人 桜花学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門 科目	合計		
	保育科	夜・通信			10	10	7	
	英語コミュニケーション学科	夜・通信			13	13	7	
	現代教養学科	夜・通信			10	10	7	
	専攻科保育専攻	夜・通信			8	8	7	
	専攻科英語専攻	夜・通信			8	8	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/jitumu-list-m.pdf">https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/jitumu-list-m.pdf</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	名古屋短期大学
設置者名	学校法人 桜花学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/R2yakuinmeibo.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	前桜花学園高校校長	2017.12.3 ～ 2021.12.2	教学（高校）
非常勤	前桜花学園大学学長	2017.4.1 ～ 2021.3.31	教学（大学）
非常勤	元法人本部総務部長	2017.12.3 ～ 2021.12.2	総務・人事
非常勤	前法人本部総務部長・元 高校事務長	2017.12.3 ～ 2021.12.2	人事・財務
非常勤	ATグループ代表取締役社 長	2017.12.3 ～ 2021.12.2	経営・財務
非常勤	近藤堯夫法律事務所 弁護士	2017.12.3 ～ 2021.12.2	コンプライアンス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	名古屋短期大学
設置者名	学校法人桜花学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画(シラバス)の作成過程 2018年度末よりFD活動の一環として、非常勤講師打合せ会にシラバス作成要領についての説明会を実施している。シラバスの内容・作成要領については教務委員会で検討し、決定した内容に基づき作成依頼を行うこととしている。</li> <li>・授業計画の作成・公表時期 シラバスの作成については、毎年12月中旬に開講科目すべてを対象として、担当者宛てに作成依頼を送付し、担当者は、1月中旬までにWebでの登録を完了し、学科長・教務委員のチェックを経て、新年度の履修登録前までにHP上で公開している。</li> </ul>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/syllabus.html">https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/syllabus.html</a>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>すべての授業科目において毎回の出席確認を実施し、あらかじめ授業計画（シラバス）に記載している評価方法に基づき厳格に学修成果を評価し、単位を与えている。また、評価の基準についても履修規程に明記している。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GPA等の客観的な指標の具体的な内容 履修科目ごとの成績評価をAA（秀）、A（優）、B（良）、C（可）、F（不可）の5段階評価に対して、4、3、2、1、0のグレードポイント（GP）を付与し、個々の履修科目のGPにそれぞれの単位数をかけ、その合計値を履修登録科目の総単位数であった平均値をGPAとする。</li> <li>・ 客観的な指標の適切な実施状況 あらかじめ設定した算出方法により算出したGPAを、前期・後期の年2回の試験終了後の成績発表時に個別に通知している。</li> </ul>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	<a href="https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202002.pdf">https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202002.pdf</a>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

<名古屋短期大学ディプロマポリシー>

名古屋短期大学は各学科が定める必要単位を修得することを通して、次の能力を備えていると認定した学生に学位を授与する。

- (1) 建学の精神と本学の教育目的に則り、卒業後も自己を成長させようと努力することができる。
- (2) 社会生活に必要とされる教養と専門的な技術・知識を身につけている。
- (3) 自らの持てる力を活かし、社会に貢献しようとするすることができる。

<保育科ディプロマポリシー>

保育者としての高度な専門性を備え、自己実現を成し遂げていくことで、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる有為な人材となるよう、次の知識・技能・態度を修得した者に卒業を認定し、短期大学士を授与する。

- (1) 保育と子育てに対して理論的・実践的に考究する能力を有し、自己実現を成し遂げながら、人類の福祉と子どもの最善の利益のために積極的に社会に参加し、問題を解決することができる。(理論的・実践的な問題解決能力を有する者)
- (2) 保育と子育てに関する高度な専門的知識と実践的スキルを修得するとともに、将来にわたり保育学に興味・関心を持ち続ける。(高度で実践的な保育と子育ての専門家)
- (3) 国際的な視野をもち、子どもの教育・福祉・心理・文化の分野など多面的かつ深い理解を有する者として、地域に根ざした社会的発展に貢献することができる。(国際的な視野で地域社会に貢献できる者)

<英語コミュニケーション学科ディプロマポリシー>

英語コミュニケーション学科では、所定の単位を取得して下記に示す力を獲得した学生に対し、短期大学士(英語)の学位を授与する。

- (1) 英語によるコミュニケーション能力の習得に励み成果を挙げた者
- (2) 国際化が進む現代社会でのさまざまな問題に適切に対応できる思考力、判断力、表現力を身につけた者
- (3) 社会において多様な人々と主体的に協働することができる態度や力を身につけた者

<現代教養学科ディプロマポリシー>

現代教養学科は、所定の単位を取得して下記に示す力を修得した学生に対し、時代や社会環境の変化に対して的確に対応し、自立した人間であると同時に社会と調和しながら、自信を持って自己実現を続けていくことができる人間であることを認定し短期大学士(現代教養)の学位を授与する。

- (1) 幅広い分野にわたる知識を身につけ、より広い視野に立って、物事を考えていくことができる思考力
- (2) 問題に向かって主体的に取り組むことができると同時に、仲間と協働しながら目的に向かって着実に努力を続けられる行動力
- (3) 他者の意見を理解する力と自分の意見を相手に伝える力を身につけ、それらに基づいてよりよい人間関係を築いていけるコミュニケーション力

<専攻科保育専攻ディプロマポリシー>

人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる高度な専門性をもった保育者の養成を目指して、次の知識・技能・態度を修得した者に修了を認定し、さらに所定の単位を修得し、大学改革支援・学位授与機構の審査を経ることで学士（教育学）の学位が授与される。

- (1) 保育と子育てに対して理論的・実践的に考究する能力を有し、自己実現を成し遂げながら、人類の福祉と子どもの最善の利益のために積極的に社会に参加し、国際的な課題や地域的な課題解決能力を有する。（国際的・地域的な問題解決能力を有する者）
- (2) 保育と子育てに関する高度な専門的知識と実践的スキルを修得するとともに、将来にわたり保育学に興味・関心を持ち続け、多様なニーズに対応しながら個人のもつ特有の能力を最大限に高めた専門性を有する。（多様なニーズに対応した高い能力をもつ保育と子育ての専門家）

※国内タイプ優先ポリシー

- (3) 国際的な視野をもち、子どもの教育・福祉・心理・文化の分野など多面的かつ深い理解を有する者として、グローバル化に対応したリーダーシップを発揮し、社会的発展に貢献することができる。（国際的な視野でグローバル化に対応したリーダーシップを発揮できる者）

※留学タイプ優先ポリシー

<専攻科英語専攻ディプロマポリシー>

短期大学士あるいは同等の履修単位保有を前提に、英米文学、英語学とその応用分野、世界の各地域の国や機関と歴史文化、ならびに国際関係の各分野の科目を履修し専門的な知識を得るとともに、問題を調査し考究した上で結論を出す能力、およびそれを発表する能力を身につけた者に修了を認定する。これらの修了方針に加え、学位授与機構の審査を経て同機構から学士の学位を受ける道を開く目的で、同機構の認定科目を開講し卒業研究課題の指導を行う。同認定科目を履修し、卒業研究課題を同機構に提出の上最終試験を受験し合格した者には、修了を認定すると同時に同機構から学位が授与される。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

<https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	名古屋短期大学
設置者名	学校法人桜花学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/jigyo2019-1.pdf">https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/jigyo2019-1.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/jigyo2019-1.pdf">https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/jigyo2019-1.pdf</a>
財産目録	<a href="https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/zaisani2019.pdf">https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/zaisani2019.pdf</a>
事業報告書	<a href="https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/jigyo2019.pdf">https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/jigyo2019.pdf</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/kansa2019.pdf">https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/kansa2019.pdf</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画書)	対象年度:令和2年度)
公表方法: <a href="https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/keikaku2020.pdf">https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/keikaku2020.pdf</a>	
中長期計画(名称:中長期計画)	対象年度:2020~2024年度)
公表方法: <a href="https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/chuki2020.pdf">https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/chuki2020.pdf</a>	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://www.nagoyacollege.ac.jp/jyouhou/hyouka.html">https://www.nagoyacollege.ac.jp/jyouhou/hyouka.html</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="https://www.nagoyacollege.ac.jp/jyouhou/hyouka.html">https://www.nagoyacollege.ac.jp/jyouhou/hyouka.html</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 保育科
教育研究上の目的 (公表方法： <a href="https://www.nagoyacollege.ac.jp/jyouthou/pdf/m-gakusoku.pdf">https://www.nagoyacollege.ac.jp/jyouthou/pdf/m-gakusoku.pdf</a> ) (概要) 本学は、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に従い、学校法人桜花学園の設置目的である信念ある女性を育成することを基本目的として、深く専門の学術技能を教授研究し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するとともに、職業または實際生活に必要な能力を育成することを主な目的とする。 保育科は、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献できる有為な保育者の育成を教育目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： <a href="https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf">https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf</a> ) (概要) ＜名古屋短期大学ディプロマポリシー＞ 名古屋短期大学は各学科が定める必要単位を修得することを通して、次の能力を備えていると認定した学生に学位を授与する。 (1) 建学の精神と本学の教育目的に則り、卒業後も自己を成長させようと努力することができる。 (2) 社会生活に必要とされる教養と専門的な技術・知識を身につけている。 (3) 自らの持てる力を活かし、社会に貢献しようとするすることができる。  ＜保育科ディプロマポリシー＞ 保育者としての高度な専門性を備え、自己実現を成し遂げていくことで、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる有為な人材となるよう、次の知識・技能・態度を修得した者に卒業を認定し、短期大学士を授与する。 (1) 保育と子育てに対して理論的・実践的に考究する能力を有し、自己実現を成し遂げながら、人類の福祉と子どもの最善の利益のために積極的に社会に参加し、問題を解決することができる。（理論的・実践的な問題解決能力を有する者） (2) 保育と子育てに関する高度な専門的知識と実践的スキルを修得するとともに、将来にわたり保育学に興味・関心を持ち続ける。（高度で実践的な保育と子育ての専門家） (3) 国際的な視野をもち、子どもの教育・福祉・心理・文化の分野など多面的かつ深い理解を有する者として、地域に根ざした社会的発展に貢献することができる。（国際的な視野で地域社会に貢献できる者）



<p>教育課程の編成及び実施に関する方針  (公表方法 : <a href="https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf">https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf</a>)</p>
<p>&lt;名古屋短期大学カリキュラムポリシー&gt;  名古屋短期大学は、学生が学位授与の方針に示されている要件を達成できるように、次の方針に基づきカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会生活を営むうえで必要となる広い教養を身につけるために教養科目を設置する。</li> <li>(2) 各学科の教育目的・目標に則した専門的な技術・知識を身につけるために専門科目を設置する。</li> <li>(3) 聴講により知識や技能を身につける講義のほか、身につけた知識や技能を活かし、自主的に学ぶ力や協働性などを身につけるための演習、自ら身につけた力を実践的なものとするための実習、研修をおく。また選択科目のほかに、それぞれの学科の学修において 特に重要とされる科目を必修科目とする。</li> </ol> <p>&lt;保育科カリキュラムポリシー&gt;  人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる有為な保育者の養成を目指して、次の点を重視して教育課程を編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 多様な学習要求をもった学生の自己実現の課題に応え、能動的で自己啓発的な学習主体として、豊かな問題発見・解決能力と社会参加の意識の高い保育者を養成する。</li> <li>(2) 高度の専門性を備え、現代的な課題に応えられる保育者を養成する。</li> <li>(3) 保育の実践と結びついた研究と教育の充実・発展を通して、地域社会の要請に応えつつ保育の社会的発展に貢献できる保育者を養成する。</li> </ol>
<p>入学者の受入れに関する方針  (公表方法 : <a href="https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf">https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf</a>)</p>
<p>&lt;名古屋短期大学アドミッションポリシー&gt;  名古屋短期大学は本学への入学者に対し次の力や資質を備えていることを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 本学の建学の精神および教育理念に共感する人</li> <li>(2) 本学での学修に必要な基礎学力（知識・思考力・判断力・表現力）を持つ人</li> <li>(3) 自主的に学ぼうとする高い意欲を持ち、専門知識を身につける努力を惜しまない人</li> </ol> <p>以上のような学生を受け入れるために、各種入試方法を設定し、入学者選抜のための多様な評価を行う。</p> <p>&lt;保育科アドミッションポリシー&gt;  保育に関する教育・研究を通して保育者をめざす学生の高度な専門性の修得と自己実現を支援し、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる有為な保育者を養成することを目指す。</p> <p>(保育科の求める学生像)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育者になりたいという意志が明確で、そのために真剣に努力できる人</li> <li>(2) 保育者に求められる適性を備えており、それをさらに伸ばそうとする意欲がある人</li> <li>(3) 子どもとその福祉に幅広い関心を持ち、そのための学びと実践の意志をもっている人</li> </ol>

<p>学部等名 英語コミュニケーション学科</p>
<p>教育研究上の目的  (公表方法：<a href="https://www.nagoyacollege.ac.jp/jyouhou/pdf/m-gakusoku.pdf">https://www.nagoyacollege.ac.jp/jyouhou/pdf/m-gakusoku.pdf</a>)</p>
<p>(概要)  本学は、学校教育法（昭和22年法律第26号）に従い、学校法人桜花学園の設置目的である信念ある女性を育成することを基本目的として、深く専門の学術技能を教授研究し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するとともに、職業または实际生活に必要な能力を育成することを主な目的とする。  英語コミュニケーション学科は、英語によるコミュニケーション能力を持ちグローバル化した社会で活躍できる人間の育成を教育目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針  (公表方法：<a href="https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf">https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf</a>)</p>
<p>(概要)  &lt;名古屋短期大学ディプロマポリシー&gt;  名古屋短期大学は各学科が定める必要単位を修得することを通して、次の能力を備えていると認定した学生に学位を授与する。  (1) 建学の精神と本学の教育目的に則り、卒業後も自己を成長させようと努力することができる。  (2) 社会生活に必要なとされる教養と専門的な技術・知識を身につけている。  (3) 自らの持てる力を活かし、社会に貢献しようとするすることができる。</p> <p>&lt;英語コミュニケーション学科ディプロマポリシー&gt;  英語コミュニケーション学科では、所定の単位を取得して下記に示す力を獲得した学生に対し、短期大学士(英語)の学位を授与する。  (1) 英語によるコミュニケーション能力の習得に励み成果を挙げた者  (2) 国際化が進む現代社会でのさまざまな問題に適切に対応できる思考力、判断力、表現力を身につけた者  (3) 社会において多様な人々と主体的に協働することができる態度や力を身につけた者</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針  (公表方法：<a href="https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf">https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf</a>)</p>
<p>&lt;名古屋短期大学カリキュラムポリシー&gt;  名古屋短期大学は、学生が学位授与の方針に示されている要件を達成できるように、次の方針に基づきカリキュラムを編成する。  (1) 社会生活を営むうえで必要となる広い教養を身につけるために教養科目を設置する。  (2) 各学科の教育目的・目標に則した専門的な技術・知識を身につけるために専門科目を設置する。  (3) 聴講により知識や技能を身につける講義のほか、身につけた知識や技能を活かし、自主的に学ぶ力や協働性などを身につけるための演習、自ら身につけた力を実践的なものとするための実習、研修をおく。また選択科目のほかに、それぞれの学科の学修において 特に重要とされる科目を必修科目とする。</p>

<英語コミュニケーション学科カリキュラムポリシー>

英語のコミュニケーション能力の基礎となる「話す、聞く、読む、書く」の4技能をバランスよく身につけると同時に、幅広い教養と豊かな感性を持ち、グローバル化した社会でのさまざまな問題に適切に対応し、活躍していくことのできる思考力、判断力、表現力を備えた人間を育成することを教育目標とする。

- (1) 基礎教育科目群では、短期大学における専門教育科目を学ぶ上で大切な学習基礎力を高める。
- (2) 専門教育科目群のうち、英語力強化のための演習・実習科目では、資格取得や卒業後の進路選択に活かすことができる英語力習得をめざすとともに、その背景にある異文化を学ぶことによりグローバル化した社会で多様な人々と協働する力を養う。また、4ヶ月 または4週間の海外留学プログラムも、実践的英語運用能力の習得はもちろんだが、異文化に身を置く中で、自ら思考し、判断し、表現する力を養い、人間的な成長につながるものである。
- (3) 専門教育科目群のうち、幅広い教養を身につけるための専門科目では、自分の興味・関心をさらに追求し、信念ある女性として様々な分野で社会に貢献し、活躍していくための基礎的な力を身につける。特に女性としてのキャリア形成を深める科目は、建学の精神を反映したものである。
- (4) 学外で社会の人々と交流しながら主体的に自らの可能性を探求するとともに、実践的な知識や技能、経験を得るために、国内、海外のインターンシップを置く。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf>)

<名古屋短期大学アドミッションポリシー>

名古屋短期大学は本学への入学者に対し次の力や資質を備えていることを期待する。

- (1) 本学の建学の精神および教育理念に共感する人
- (2) 本学での学修に必要な基礎学力（知識・思考力・判断力・表現力）を持つ人
- (3) 自主的に学ぼうとする高い意欲を持ち、専門知識を身につける努力を惜しまない人

以上のような学生を受け入れるために、各種入試方法を設定し、入学者選抜のための多様な評価を行う。

<英語コミュニケーション学科アドミッションポリシー>

名古屋短期大学英語コミュニケーション学科は、英語によるコミュニケーション能力の育成とともに、幅広い教養と豊かな感性を持って国際社会や地域社会に貢献できる人材を育成することを教育目標にしている。

(英語コミュニケーション学科の求める学生像)

- (1) 英語によるコミュニケーションに興味・関心があり自ら学ぼうとする学習意欲のある人
- (2) 英語圏の生活・文化・交流について、幅広い興味と関心を持っている人
- (3) 異文化圏の人々との関わりを通じて視野を広げ、思考力、判断力を養いたい人

<p>(4) グローバルな現代社会・企業社会において多様な人々と協働しながら自己の能力を 発揮したいと思っている人</p> <p>(5) 英語を教えることに興味・関心がある人</p> <p>(6) 本学科の学修に必要な基礎的な学力・技能とコミュニケーション能力がある人</p>
<p>学部等名 現代教養学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：<a href="https://www.nagoyacollege.ac.jp/jyouhou/pdf/m-gakusoku.pdf">https://www.nagoyacollege.ac.jp/jyouhou/pdf/m-gakusoku.pdf</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学は、学校教育法（昭和22年法律第26号）に従い、学校法人桜花学園の設置目的である信念ある女性を育成することを基本目的として、深く専門の学術技能を教授研究し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するとともに、職業または实际生活に必要な能力を育成することを主な目的とする。</p> <p>現代教養学科は、現代を創造的に生き抜くための英知を持った人間の育成を教育目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：<a href="https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf">https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf</a>)</p>
<p>&lt;名古屋短期大学ディプロマポリシー&gt;</p> <p>名古屋短期大学は各学科が定める必要単位を修得することを通して、次の能力を備えていると認定した学生に学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 建学の精神と本学の教育目的に則り、卒業後も自己を成長させようと努力することができる。</li> <li>(2) 社会生活に必要とされる教養と専門的な技術・知識を身につけている。</li> <li>(3) 自らの持てる力を活かし、社会に貢献しようとするすることができる。</li> </ol> <p>&lt;現代教養学科ディプロマポリシー&gt;</p> <p>現代教養学科は、所定の単位を取得して下記に示す力を修得した学生に対し、時代や社会環境の変化に対して的確に対応し、自立した人間であると同時に社会と調和しながら、自信を持って自己実現を続けていくことができる人間であることを認定し短期大学士(現代教養)の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 幅広い分野にわたる知識を身につけ、より広い視野に立って、物事を考えていくことができる思考力</li> <li>(2) 問題に向かって主体的に取り組むことができると同時に、仲間と協働しながら目的に向かって着実に努力を続けられる行動力</li> <li>(3) 他者の意見を理解する力と自分の意見を相手に伝える力を身につけ、それらに基づいてよりよい人間関係を築いていけるコミュニケーション力</li> </ol>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：<a href="https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf">https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf</a>)</p>
<p>&lt;名古屋短期大学カリキュラムポリシー&gt;</p> <p>名古屋短期大学は、学生が学位授与の方針に示されている要件を達成できるように、次の方針に基づきカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会生活を営むうえで必要となる広い教養を身につけるために教養科目を設置する。</li> <li>(2) 各学科の教育目的・目標に則した専門的な技術・知識を身につけるために専門科目を設置する。</li> </ol>

- (3) 聴講により知識や技能を身につける講義のほか、身につけた知識や技能を活かし、自主的に学ぶ力や協働性などを身につけるための演習、自ら身につけた力を実践的なものとするための実習、研修をおく。また選択科目のほかに、それぞれの学科の学修において 特に重要とされる科目を必修科目とする。

<現代教養学科カリキュラムポリシー>

社会の変化に的確に対応しながら、より良い未来へ向うためには、つねに社会との関係の中で問題をとらえ、考えていくことができる力を養わなければならない。このような「現代を創造的に生き抜く英知」を育てることが名古屋短期大学現代教養学科の教育目標である。

- (1) 基礎教養科目群では、短期大学で学ぶための基礎を身につけ、自ら考え、発表する場を用意し、そこで得たものをまとめる力を養う。これらは社会で必要とされる思考力・判断力・表現力、および主体性・協調性などを育成することを主眼とするため、必修科目とする。
- (2) 専門教養科目群では、大きく変貌を遂げる現代社会を力強く生き抜くために身につけなければならない専門的な知識や技能を学び、資格取得や卒業後の進路選択に活かすことができる力を身につける。
- (3) 学外で多くの人々と交流しながら主体的に自らの人間的な可能性を切り開くとともに、実践的な知識や技能、経験を得るために、各種のインターンシップや「国内研修」「海外研修」などの「学外研修」をおく。
- (4) 企業、病院、ホテルなどの職場で必要とされる技能に関わる資格・検定を取得するために、基礎となる科目をおく。
- (5) 全ての科目において、社会人として必要とされる力を身につけるためのアクティブラーニングの機会を設けるようにする。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf>)

<名古屋短期大学アドミッションポリシー>

名古屋短期大学は本学への入学者に対し次の力や資質を備えていることを期待する。

- (1) 本学の建学の精神および教育理念に共感する人
- (2) 本学での学修に必要な基礎学力（知識・思考力・判断力・表現力）を持つ人
- (3) 自主的に学ぼうとする高い意欲を持ち、専門知識を身につける努力を惜しまない人

以上のような学生を受け入れるために、各種入試方法を設定し、入学者選抜のための多様な評価を行う。

<現代教養学科アドミッションポリシー>

名古屋短期大学現代教養学科は、多様化する時代の中で、「自分らしく生きていく力」を身につける学科である。働くために必要な知識や資格を身につけ、生涯を通じて自分の力を発揮できる能力を養う。

(現代教養学科の求める学生像)

- (1) 自分の中に眠っている可能性を見つけ出したい人
- (2) 新しいこと、いろいろなことにチャレンジしたい人
- (3) しっかりと就職して働きたい人
- (4) 充実した2年間を送りたい人

(5) 自ら考え、行動することをめざす人

学部等名 専攻科保育専攻

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.nagoyacollege.ac.jp/jyouhou/pdf/m-gakusoku.pdf>)

(概要)

本学は、学校教育法(昭和22年法律第26号)に従い、学校法人桜花学園の設置目的である信念ある女性を育成することを基本目的として、深く専門の学術技能を教授研究し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するとともに、職業または实际生活に必要な能力を育成することを主な目的とする。

専攻科は、短期大学における教育の基礎の上に、専攻領域に関する事項を教授し、研究を指導することを基本目的とする。

保育専攻は、保育に関する一層の専門的力量を養い、時代の要請に応えられる幼児教育者の養成並びに幼児教育の有資格者に対するリカレント教育を行うことを教育目的とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf>)

<名古屋短期大学ディプロマポリシー>

名古屋短期大学は各学科が定める必要単位を修得することを通して、次の能力を備えていると認定した学生に学位を授与する。

- (1) 建学の精神と本学の教育目的に則り、卒業後も自己を成長させようと努力することができる。
- (2) 社会生活に必要とされる教養と専門的な技術・知識を身につけている。
- (3) 自らの持てる力を活かし、社会に貢献しようとするすることができる。

<専攻科保育専攻ディプロマポリシー>

人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる高度な専門性をもった保育者の養成を目指して、次の知識・技能・態度を修得した者に修了を認定し、さらに所定の単位を修得し、大学改革支援・学位授与機構の審査を経ることで学士(教育学)の学位が授与される。

- (1) 保育と子育てに対して理論的・実践的に考究する能力を有し、自己実現を成し遂げながら、人類の福祉と子どもの最善の利益のために積極的に社会に参加し、国際的な課題や地域的な課題解決能力を有する。(国際的・地域的な問題解決能力を有する者)
- (2) 保育と子育てに関する高度な専門的知識と実践的スキルを修得するとともに、将来にわたり保育学に興味・関心を持ち続け、多様なニーズに対応しながら個人のもつ特有の能力を最大限に高めた専門性を有する。(多様なニーズに対応した高い能力をもつ保育と子育ての専門家)

※国内タイプ優先ポリシー

- (3) 国際的な視野をもち、子どもの教育・福祉・心理・文化の分野など多面的かつ深い理解を有する者として、グローバル化に対応したリーダーシップを発揮し、社会的発展に貢献することができる。(国際的な視野でグローバル化に対応したリーダーシップを発揮できる者)

※留学タイプ優先ポリシー

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf>)

<名古屋短期大学カリキュラムポリシー>

名古屋短期大学は、学生が学位授与の方針に示されている要件を達成できるように、次の方針に基づきカリキュラムを編成する。

- (1) 社会生活を営むうえで必要となる広い教養を身につけるために教養科目を設置する。
- (2) 各学科の教育目的・目標に則した専門的な技術・知識を身につけるために専門科目を設置する。
- (3) 聴講により知識や技能を身につける講義のほか、身につけた知識や技能を活かし、自主的に学ぶ力や協働性を身につけるための演習、自ら身につけた力を実践的なものとするための実習、研修をおく。また選択科目のほかに、それぞれの学科の学修において 特に重要とされる科目を必修科目とする。

<専攻科保育専攻カリキュラムポリシー>

人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる高度な専門性をもった保育者の養成を目指して、キャリア教育に基づき、次の点を重視して教育課程を編成する。

- (1) 多様な学習要求をもった学生の自己実現の課題に応え、能動的で自己啓発的学習主体として、豊かな問題発見・解決能力と社会参加の意識を高くもつ、高度な専門性をもった保育者を養成する。(高度な保育者の専門性)
- (2) 高度の専門性を備え、急速に変化する現代的な課題に多様性をもって応えられる保育者を養成する。  
※国内タイプ優先ポリシー (多様性と自己解決の能力)
- (3) 保育の実践と理論を通して、国際社会の要請に応えつつ保育の社会的発展に貢献できる保育者を養成する。  
※留学タイプ優先ポリシー (国際的な能力)

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf>)

<名古屋短期大学アドミッションポリシー>

名古屋短期大学は本学への入学者に対し次の力や資質を備えていることを期待する。

- (1) 本学の建学の精神および教育理念に共感する人
- (2) 本学での学修に必要な基礎学力(知識・思考力・判断力・表現力)を持つ人
- (3) 自主的に学ぼうとする高い意欲を持ち、専門知識を身につける努力を惜しまない人

以上のような学生を受け入れるために、各種入試方法を設定し、入学者選抜のための多様な評価を行う。

<p>&lt;専攻科保育専攻アドミッションポリシー&gt;</p> <p>保育に関する教育・研究を通して保育者をめざす学生の高度な専門性の修得と自己実現を支援し、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献し、社会に出た後も持続的に学び続け、リカレント教育を含めて自身の能力や可能性を広げることができる保育者を養成することを目指す。</p> <p>(1) 理論と実践を探究する高度な専門性を身につけた保育者になりたいという強い意志をもち、学士（教育学）の学位取得を目指す人 （高度な保育者の専門性）</p> <p>(2) 常に変革する社会情勢に柔軟に対応し、多様化する社会のニーズに対して、個人の能力と可能性を開花させ、自ら問題を解決することができる人 ※国内タイプ優先ポリシー（多様性と自己解決の能力）</p> <p>(3) 急速に進むグローバル化や高度情報化に対応できる力をもち、国際的に活躍できる人 ※留学タイプ優先ポリシー（国際的な能力）</p>
<p>学部等名 専攻科英語専攻</p>
<p>教育研究上の目的 （公表方法：<a href="https://www.nagoyacollege.ac.jp/jyouhou/pdf/m-gakusoku.pdf">https://www.nagoyacollege.ac.jp/jyouhou/pdf/m-gakusoku.pdf</a>）</p>
<p>（概要）</p> <p>本学は、学校教育法（昭和22年法律第26号）に従い、学校法人桜花学園の設置目的である信念ある女性を育成することを基本目的として、深く専門の学術技能を教授研究し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するとともに、職業または实际生活に必要な能力を育成することを主な目的とする。</p> <p>専攻科は、短期大学における教育の基礎の上に、専攻領域に関する事項を教授し、研究を指導することを基本目的とする。</p> <p>英語専攻は、高い実践的な英語力を養成し、英語という言語と英語圏の文化に関わる研究を深め、より専門的な領域で活躍できる人材を育てることを教育目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 （公表方法：<a href="https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf">https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf</a>）</p>
<p>&lt;名古屋短期大学ディプロマポリシー&gt;</p> <p>名古屋短期大学は各学科が定める必要単位を修得することを通して、次の能力を備えていると認定した学生に学位を授与する。</p> <p>(1) 建学の精神と本学の教育目的に則り、卒業後も自己を成長させようと努力することができる。</p> <p>(2) 社会生活に必要とされる教養と専門的な技術・知識を身につけている。</p> <p>(3) 自らの持てる力を活かし、社会に貢献しようとするすることができる。</p>
<p>&lt;専攻科英語専攻ディプロマポリシー&gt;</p> <p>短期大学士あるいは同等の履修単位保有を前提に、英米文学、英語学とその応用分野、世界の各地域の国や機関と歴史文化、ならびに国際関係の各分野の科目を履修し専門的な知識を得るとともに、問題を調査し考究した上で結論を出す能力、およびそれを発表する能力を身につけた者に修了を認定する。これらの修了方針に加え、学位授与機構の審査を経て同機構から学士の学位を受ける道を開く目的で、同機構の認定科目を開講し卒業研究課題の指導を行う。同認定科目を履修し、卒業研究課題を同機構に提出の上最終試験を受験し合格した者には、修了を認定すると同時に同機構から学位が授与される。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：<a href="https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf">https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf</a>）</p>



<p>&lt;名古屋短期大学カリキュラムポリシー&gt;</p> <p>名古屋短期大学は、学生が学位授与の方針に示されている要件を達成できるように、次の方針に基づきカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会生活を営むうえで必要となる広い教養を身につけるために教養科目を設置する。</li> <li>(2) 各学科の教育目的・目標に則した専門的な技術・知識を身につけるために専門科目を設置する。</li> <li>(3) 聴講により知識や技能を身につける講義のほか、身につけた知識や技能を活かし、自主的に学ぶ力や協働性などを身につけるための演習、自ら身につけた力を実践的なものとするための実習、研修をおく。また選択科目のほかに、それぞれの学科の学修において特に重要とされる科目を必修科目とする。</li> </ol> <p>&lt;専攻科英語専攻カリキュラムポリシー&gt;</p> <p>名古屋短期大学英語コミュニケーション学科のカリキュラムを基盤に学びを深化させ、英語学、英米文学、それらの応用分野、ならびに世界の各地域の事情や国際関係分野の各科目を偏りなく修得することを目標とし、これらの分野への知識を深める講義目、それらの知識を独自の課題に適用して考究する能力を養う演習科目、ならびに英語運用能力を高めるための語学演習科目をカリキュラムの柱とする。これらの評価に際しては、講義科目は知識の修得を多面的に評価する。演習科目についてはそれぞれの専門分野の知識に基づく考察力と発表能力を評価する。英語の実用的な運用能力については技能別に評価する。さらに、学位授与機構の認定科目を配当したカリキュラムで、学位申請の道を開く。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：<a href="https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf">https://www.nagoyacollege.ac.jp/syllabus/2020/202001.pdf</a>)</p>
<p>&lt;名古屋短期大学アドミッションポリシー&gt;</p> <p>名古屋短期大学は本学への入学者に対し次の力や資質を備えていることを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 本学の建学の精神および教育理念に共感する人</li> <li>(2) 本学での学修に必要な基礎学力（知識・思考力・判断力・表現力）を持つ人</li> <li>(3) 自主的に学ぼうとする高い意欲を持ち、専門知識を身につける努力を惜しまない人</li> </ol> <p>以上のような学生を受け入れるために、各種入試方法を設定し、入学者選抜のための多様な評価を行う。</p> <p>&lt;専攻科英語専攻アドミッションポリシー&gt;</p> <p>短期大学士の学位あるいは同等の科目等の履修単位を保有する者で、国際化する社会で他者と協同して活躍するための素地となる実用的な英語運用能力を高める意欲を持ち、また、英語圏の文学や、英語の言語としての特徴を積極的に学ぶ思考力、判断力、表現力を備える女性。</p>

## ②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.nagoyacollege.ac.jp/major/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
保育科	—	8人	7人	0人	2人	1人	18人
英語コミュニケーション学科	—	5人	3人	0人	1人	0人	9人
現代教養学科	—	2人	2人	0人	3人	0人	7人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
1人				133人			136人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： <a href="https://www.nagoyacollege.ac.jp/jyuhou/jyuhou.html">https://www.nagoyacollege.ac.jp/jyuhou/jyuhou.html</a>					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
保育科	240人	250人	104%	480人	488人	102%	人	人
英語コミュニケーション学科	80人	73人	91%	160人	152人	95%	人	人
現代教養学科	105人	59人	56%	210人	138人	66%	人	人
合計	425人	382人	90%	850人	778人	92%	人	人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
保育科	249人 (100%)	30人 (12.0%)	203人 (81.5%)	16人 (18.5%)
英語コミュニケーション学科	84人 (100%)	11人 (13.1%)	61人 (72.6%)	12人 (14.3%)
現代教養学科	93人 (100%)	3人 (3.2%)	75人 (80.6%)	15人 (16.1%)
合計	426人 (100%)	44人 (10.3%)	339人 (79.6%)	43人 (10.1%)
(主な進学先・就職先) 各市町村公務員、近鉄エクスプレス、スイスポートジャパン、ドリームスカイ、東海理化、岡三証券、住友電気工業、ユニチカ、村田機械、日本通運				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画（シラバス）の作成過程 2018年度末よりFD活動の一環として、非常勤講師打合せ会にシラバス作成要領についての説明会を実施している。シラバスの内容・作成要領については教務委員会で検討し、決定した内容に基づき作成依頼を行うこととしている。</li> <li>・授業計画の作成・公表時期 シラバスの作成については、毎年12月中旬に開講科目すべてを対象として、担当者宛てに作成依頼を送付し、担当者は、1月中旬までにWebでの登録を完了し、学科長・教務委員のチェックを経て、新年度の履修登録前までにHP上で公開している。</li> </ul>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
すべての授業科目において毎回の出席確認を実施し、あらかじめ授業計画（シラバス）に記載している評価方法に基づき厳格に学修成果を評価し、単位を与えている。また、評価の基準についても履修規程に明記している。				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	保育科	65 単位	有・無	単位
	英語コミュニケーション学科	68 単位	有・無	単位
	現代教養学科	70 単位	有・無	単位
	専攻科保育専攻	46 単位	有・無	単位
	専攻科英語専攻	44 単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.nagoyacollege.ac.jp/campusmap/index.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	保育科	672,000 円	240,000 円	382,000 円	
	英語コミュニケーション学科	672,000 円	240,000 円	372,000 円	
	現代教養学科	672,000 円	240,000 円	372,000 円	
専攻科	保育専攻	336,000 円	280,000 円	170,000 円	
	英語専攻	336,000 円	280,000 円	170,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>入学後の履修ガイダンスに始まり履修指導・登録、試験ガイダンス、成績通知、追試験・再試験指導、実習ガイダンス等、学生に対して日常的に丁寧な対応を心がけており、ガイダンス・窓口相談を中心に履修から卒業に至る適切な学修支援を行っている。</p> <p>また、全学科において10～15名程度のゼミを編成して、担当教員は授業と日常の指導の際に、履修状況や学生生活の様子を把握し指導を行っている。</p> <p>経済的支援においては日本学生支援機構を中心に各種奨学金の紹介や申請に係る書類手続き、面接、留学などプログラム型奨学金制度への機関申請等多くの学生が利用しやすいように対応。また、学園独自の奨学金制度もあり、修学支援を実施。入学後の家計の急変への対応、学業や運動などにおいて優れた実績のある学生への経済的支援制度の充実に努めている。さらに正課教育に組み込まれている留学に関わる費用の一部補助など修学意欲を支える支援制度を用意している。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>保育科ではゼミ担当教員と学生課が連携し、進路について対応。1年次より試験対策講座を実施、その他各種のガイダンス、外部講師講演、卒業生との懇談会、保育職機関との合同説明会等きめ細やかな指導を展開している。また、CaCoRo一進路相談室に専門スタッフを配置し、保育職以外の相談に対応、一般企業就職希望者についてはガイダンス、学内合同企業説明会への参加を促しながら、一人一人の進路への助言を行っている。</p> <p>英語コミュニケーション学科、現代教養学科ではゼミ担当教員と学生課が連携をし、キャリア教育、外部講師講演、マナー講座をはじめとした各種講座を用意、学生の進路に応じた指導を展開している。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>保健室を窓口でゼミ担当教員、保健室担当者、学生相談室専門スタッフ、学生課とが連携をし、一人一人の状況に応じて対応している。学生相談室は水曜日・水曜日・金曜日に開室、学生が利用しやすい時間を予約、また学生相談室以外に CaCoRo一進路相談室を開設、専門スタッフを配置し、学生の利用しやすい時間帯で対応。障がい者支援についてはガイドラインに沿って特別支援が必要な学生に対しては特別支援会議を開き、本人及び保護者と連絡を図り、本人の希望に沿った支援を行っている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : <a href="https://www.nagoyacollege.ac.jp/jyouhou/jyouhou.html">https://www.nagoyacollege.ac.jp/jyouhou/jyouhou.html</a>
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	名古屋短期大学
設置者名	学校法人 桜花学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		0人	0人	0人
内 訳	第Ⅰ区分	0人	0人	
	第Ⅱ区分	0人	0人	
	第Ⅲ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				0人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）			
修業年限で卒業又は修了 できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数 の5割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他 学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に 連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

(備考)
------

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。